

「相島波止」

福岡県新宮町

朝鮮通信使を迎えるため、天和二年(1682)3月4日、福岡藩の波止築奉行戸浪次郎兵衛・吉田八丈夫の二人が波止場の構築に取り掛かった。先波止と前波止があり、先波止は官人木屋の表門の正面にあり、通信使の上陸用である。前波止は対馬藩主や随行者の上陸用であり、現在町営渡船「しんぐう」の船着き場である。

先波止と前波止の間は、59間(約106m)と記されている。両波止とも船から上がる所に石で三段の雁木を付けた。

石は島内の加川・井の尻・かうの崎・山手から平田舟四隻で運んでいる。完了後その平田舟二隻は定番に預けられ、通信使来島のときは、足軽たちの宿泊用に使わせた。延べ人夫3850人。完成は5月2日で、約2か月かかっているのので、平均すると毎日60人以上の人が働いたことになり、かなりの突貫工事だったようだ。

【参考資料】新宮町誌



相島先波止

みどころ



- 相島地域産物展示販売所：水産加工場で生産された、新鮮なアジやエソのすり身を使ったかまぼこをはじめ、塩ウニ、イワシ・アジの干物、ワカメ・テングサなどを販売。販売所内には食堂もある。☎092-962-4360
- 鼻栗瀬（メガネ岩）：島の東300mの海上にそそり立ち、全島が玄武岩できている。高さ20メートル・周囲100m、形がおにぎりのようなので三角島とも言っている。波の浸蝕により中央に大穴があき、島の長井の丘からの眺めがすばらしい。また、平成18年2月には県の文化財として指定された。